



図書だよ



よみきかせ会

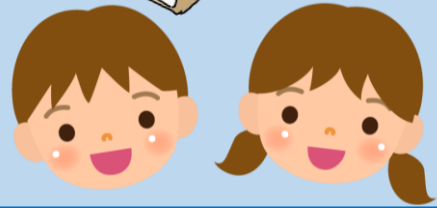
みずはし 水橋の みんな 民話 「 づか きつね塚 」

を聞いて

- ぎん 銀ぎつねがかわいそうだった。
- おおおとこ ほし 大男が星をかぞえるところが、おもしろかった。
- おおおとこ きつねが大男にばけているところが、ふしぎ。
- みずはし た こめ 水橋の田んぼでお米ができて、すごいと思った。



1年



2年



- きつねが め 目をあけたまま しぬ しぬところが、 こころ のこ 心に残った。
- きつねが ほし かず 星の数をかぞえながら しん しんでいたのが、かわいそうだった。
- きつねの いえ 家を まも まるために、 にんげん 人間に へん へんしんして、おもしろかった。

- みずはし 水橋のことを し もっと知りた おも いたと思った。

- むかし むかしの人は でんしゃ 電車や くるま 車がないから、 あ 歩いて どこか どこかに い いくんだ おも と思った。

- みずはし 水橋の田んぼは、 はなし このお話 のよう のように でき できたんだ おも と思った。

- どうして、 そこ そこまで ほし 星の数をかぞえるのか、 わ 分からなかった。

- みずはし 水橋の みんな 民話が き 聞けてよかった。 ちいき 地域ごとに いろいろ いろいろな はなし 民話 がある があるのだ おも と思った。

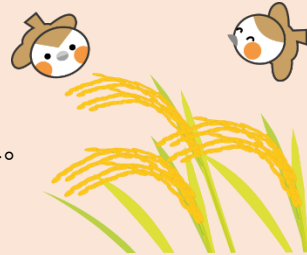


3年

4年



- きつねが^{おおおとこ}大男になって、自分たちのいる^{しぶん}場所をなくさないで^{ばしよ}とうったえ
ているところに^{かんどう}感動した。
- 主人公（^{しゅじんこう}正満又右衛門^{しょうまんまたう えもん}）は、やさしい^{おも}と思った。
- ^{ぎん}銀ぎつねのおかげで^た田んぼがよくできた。



5年

- 大男が「砂^{すな}の数を知っているのか？」と言って、次に又右衛門が「星^{ほし}の数を知っているのか？」と言ったところが、そう返すとは^{かえ}思わなかったし、おもしろかった。
- きつねのために^{つか}塚をつくるなんて、やさしい^{おも}と思った。感謝もしていた^{かんしゃ}と思った。
- ^な亡くなったきつねの^め目をやさしくとじてあげた^{また}又右衛門はやさしい^{おも}と思った。



6年



- むかし、あれ^ち地とは知らなかった。 • ^{どうぶつ}動物を大切にしたい^{たいせつ}と思った。
- むかしの^{みずはし}水橋が^{そうそう}想像できた。大きい^{おお}川や広い^{かわ ひろ}野原が広がっているところ^{のほら ひろ}など、イメージができた。これからも、きれいな^{みずはし}水橋を守りたい^{まも}と思った。
- ^た田んぼがきれいなのは、むかしから「きつね^{つか}塚」を語りついできた^{かた}からなの^{おも}かと思った。

吉谷先生

水橋の土地については、歴史の本を読んで少し知っていましたが、民話としてきつねが出てきて、今の水橋の田園風景が広がっていることが分かり、とても興味深かったです。ありがとうございました。

ありがとうございます！



光里先生

お話の中に出てきた「きつね塚」が本当に水橋にあると聞き、このような民話をきかせることの素晴らしさを感じました。ありがとうございました。



田中先生

水橋の民話ということで、この地域の自然の豊かさや、米作りに対する人々の思いが、ずっと古くから受け継がれてきた場所なのだと思いました。人と動物の共存の在り方など、心が温まるだけでなく、考えさせられるお話でした。

*たくさんの感想文をお寄せいただきまして、

ありがとうございました。

